

くらよし

January
2012

1

平成24年1月号

No.1403

今月のトップ：年頭のごあいさつ

新しい「倉吉の顔」です。
よろしくおねがいします。



CONTENTS

- 年頭のごあいさつ 2～3
- 牧田實夫さんが倉吉市名誉市民に 4～7
- 平成 23 年市政主要ニュース 8～9
- インフォメーション・プラス .. 10～11
- インフォメーション 12～15
- あんしんファイル/介護予防 16～17
- ハート・バリアフリー 18
- シナプロ韓国/とりたん 19
- まちかどピンナップ 20～21
- 出かけてみよう 22～23
- 元気通信/人口 24

すてきな名前をつけてね!!
～倉吉市イメージキャラクター決定～

※愛称の応募方法は10ページに掲載しています。

年頭のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにはお元気で新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、大雪で始まり、3月11日の東日本大震災、春先の天候不順、9月の台風被害、また世界各地でも洪水の被害など、災害が多発した1年でありました。特に、震災被害に遭われた地域の早期の復興をお祈りいたします。

その一方で、10月末には、第31回全国豊かな海づくり大会に出席された天皇、皇后両陛下が倉吉においでになり、博物館や白壁土蔵群周辺などをご視察いただきました。心より感謝申し上げます。また、市民の皆さまにも大勢お出迎えいただき、改めて厚くお礼申し上げます。両陛下のご訪問を誇りに、元氣な倉吉づくりに努めていきたいと考えています。

今年辰年です。「辰」という字の語源は、草木が盛んに成長し、形が整った状態を表すと書かれています。まさに元氣なまちづくりを進めるのにぴったりではないかと思えます。

そのためには、今年こそ災害のない穏やかな1年であってほしいと切に願っています。

わが国の政治、経済、社会は、本当に多くの課題を抱えています。私たちの暮らす倉吉市も同様です。少子高齢化、中心市街地の空洞化、人口減少など。特に、若者の定着、あるいは学校を終えた後に帰って来られる雇用の場を確保することは最優先で取り組まなければなりません。

その一方で、今後、いわゆる団塊の世代が高齢者の仲間入りをしていきます。その意味でも高齢者の皆さまが地域活動に参加され、健康で元氣に過ごしていただくことも大きなテーマとなります。

このため、今年も企業誘致や観光も含めた各産業の振興を図っていきたくと思っておりますし、若者をはじめとするあらゆる世代の皆さまに地域活動に参加していただくことも大切です。毎年、市内でたくさんイベントを実施していただいています。昨年、倉吉駅の改築を契機に初めて開催された「倉吉ばえん祭」も本当に多くの皆さまにご参加いただき、倉吉の元氣づくりに貢献していただきました。

また、高齢者の皆さまが閉じこもらない、孤立しない取り組みも必要です。昨年は震災に際し「絆」という言葉が大きく取り上げられました。共に助け合い、支えあう元氣な地域づくりを市民の皆さまと共に進めていきたいと考えています。

今年一年が皆さまにとりまして、素晴らしい年になりますよう祈念し、年頭のごあいさつとさせていただきます。

行政

Administration

助け合い、支え合う元氣なまちづくり

倉吉市長

石田耕太郎



New Year Greetings

あけましておめでとうございます。

昨年は、正月からの大雪、そして、3月11日には、これまで経験したことのない東日本大震災に見舞われ、その影響が、その後の日本のエネルギーのあり方や人間の生き方を大きく変えたと思います。

昨日まであった家や職場が津波で流され、家族が失われ、故郷を追われ、まだ仮設住宅で過ごされている方の気持ちを思うと、私たちは今までの普通の出来事がいかに恵まれていたのかということに気がつかされます。

被災された皆さんにとって、家族と暮らすことができる、家がある、仕事があるという暮らしを一日も早く取り戻すことができるよう心から願っています。

今、わが国では年金・医療をはじめ、今までの仕組みが行き詰まっています。国債の発行残高も1,000兆円に近づき、将来の子どもたちへ大きなツケを残すこととなります。社会保障と税の一体改革が急がれます。

少子高齢化社会では年金制度が崩れようとしています。消費税の増税も身近に迫っています。

TPPをはじめとし、円高など、日本を取り巻く環境はとても厳しい状況ばかりですが、被災に遭われた方々の気持ちを考えると、私たちも元気を出さなければと思います。

「頑張ろう東北、頑張ろう倉吉、頑張ろう日本」

そのような中ではありましたが、倉吉市では、昨年秋には天皇陛下、皇后さまにご訪問いただき、明るい日差しを得たような気がしました。被災地においても、天皇陛下と皇后さまによるお見舞いは、この理不尽な災害に遭われた方々にとって、心の安らぎを与えられたものだったと信じています。

災害はいつ起こるかわかりませんが、私たち議員は、行政と両輪となり、未来の子どもたちのためにも、高齢者の皆さんにとっても、住みよく、安心して安全な生活ができるように市政の課題に取り組んで参りたいと考えています。

新年の門出にあたり、本年が皆さまにとって、幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

議会

Assembly

安全安心なまちづくりを目指して

倉吉市議会議長

谷本修一

